

翁久允賞を受賞して

この度、公益財団法人翁久允財団より、平成 30 年度翁久允賞を頂戴しました。授賞理由は、「中島淑恵氏は、富山大学ヘルン研究会主催の講演会ならびに国際シンポジウム等を牽引する中心的な存在として、富山県の文化遺産であるヘルン文庫を、国際的・学際的な視野から積極的に活用し、その研究成果やヘルン文庫の存在を、広く普及させている功績（翁久允財団 HP より）」とのことです。この賞は、1981 年から続いている由緒ある賞で、本研究会としては、2007 年の水野真理子先生の「翁久允のアイデンティティー ー在米時代に富山の地元紙に発表した評論、論説を中心にー」に次ぐ受賞となります。この賞の対象は、「郷土富山県在住あるいは出身の、研究者・芸術家」または、「郷土富山県に関係する研究・芸術、あるいは研究者・芸術家」で、「郷土富山県に関係する人材の奨学を目的とし、下記の研究あるいは研究者・芸術家に対し、研究費その他を支給する」ことを主旨としているとのことです。今回の賞は、形式上は中島個人の名で頂きましたが、これはもちろんこれまでのヘルン研究会の活動を富山の皆様にお認め頂いたことが形となったもので、2019 年 2 月 3 日（日）に富山市立図書館で行われた記念講演会では、多数の皆様のご来臨を賜り、過分のお褒めの言葉を頂戴しました。これはもちろん、これまでシンポジウム、講演会、論集の発行等研究会のメンバーおよび会の活動をお手伝いいただき、盛り立てて下さった皆様のお蔭であり、中島一人では到底なしえなかったことであります。

ここに至るまでに、ヘルン文庫の書き込み調査を中心に、国内外の研究者との情報交換、連携を深めながら、少しずつ少しずつ富大流の研究スタイルを作ってまいりました。さまざまな分野の研究者がそれぞれに自由な立場から研究を行い意見交換する、という形も、まだまだよちよち歩きを始めたところではあります。しかしながら、学内外の体制の変化、絶えず具体的な成果を求められる昨今のわが国の研究界の風潮の中で、会の運営に物心両面で苦心する中、これまでの努力をこのような形で認めていただいたことは、大きな励みとなりました。とりわけ、19 歳で渡米し、米国でジャーナリストとして出発した翁久允の名を冠する賞を頂いたことは、時代こそ違え同じような経歴を持つハーンを研究する者にとってはひとしお感慨深いものでございます。

まずはこのような機会をお与えいただいた翁久允財団に心より感謝し、これからも国内外の研究者との交流を深め、地域の皆様はその成果を還元しながら、若い世代に研究を引き継いで行くため、一層精進して参る所存でございます。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

2018 年 3 月吉日

中島 淑恵